

平成28年度第3回八幡地域協議会会議録 (HP版)

日 時 平成29年2月24日(金) 午後2時～午後3時53分

場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室

出席者(12名)

1号委員 佐藤政義 本多秀之 荒生栄治 遠田秀明 石川正志
小松久美子 長谷川明子

2号委員 後藤純子 阿部喜至夫 小松幸雄 高橋知美

欠席委員 池田満好 佐藤康晴

農林水産部：部長 成澤嘉昭 農政課主査 菅原 淳

子育て支援課：課長 遠藤裕一

政策推進課：地域医療政策主幹 池田恒弥 地方創生推進主査 小田雅之

八幡総合支所：支所長(兼)地域振興課長 後藤啓、建設産業課長 伊藤将人

建設産業課長補佐 後藤明広 建設産業課長補佐 土田正人

地域振興課長補佐 村上秀俊 地域振興課長補佐 村上祐美

地域振興課主査 鳴瀬勉

傍聴者： なし

議事日程

(報告)

- ① 鳥海高原牧場について
- ② 八幡保育園・市条保育園の統合について
- ③ 酒田市医療提供体制整備基本構想(案)について

(協議)

- ① 市長への八幡地域協議会の提言事項について

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 報 告
- 5 協 議
- 6 その他
- 7 閉 会

【協議の概略及びその結果】

本協議会は、農林水産部による「鳥海高原牧場について」、子育て支援課による「八幡保育園・市条保育園の統合について」、政策推進課による「酒田市医療提供体制整備基本構想（案）について」の以上3件の報告と「市長への八幡地域協議会の提言事項について」の協議があった。

1 開 会

○小松副会長 本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。これより、平成28年度の第3回目の地域協議会を開催します。都合により欠席の委員は、池田満好委員、佐藤康晴委員の2名です。

2 会議録署名委員の指名

○小松副会長 次に次第の2、会議録署名委員の指名を行います。番号順ということになっていますので、今回は、“2番の阿部喜至夫委員”にお願いしたいと思います。阿部委員、よろしくをお願いします。

○阿部喜至夫委員 わかりました。

3 会長あいさつ

○小松副会長 それでは、会議次第に従いまして、荒生会長からのあいさつをお願いします。

○荒生会長 皆さん、どうもご苦勞様でございます。2月もあと少しで終わりで長い冬が終わって早く暖かくなってほしいという気持ちです。今日は本年度最後の地域協議会ということで、皆さんから忌憚のないご意見を頂戴しまして、進めてまいりたいと思います。今日は、3件の報告と協議として「市長への提言事項」の1つが出ていますので、ご協議よろしくをお願いします。

4 報 告

○小松副会長 それでは、これより会議に入ります。会長よろしくをお願いします。

○荒生議長 それでは、最初に次第4の報告に入りますが、今日は1時間半ぐらいの時間を見ているのでよろしくをお願いします。それでは、最初に報告事項の(1)「鳥海高原牧場について」市の担当部長より説明をお願いします。

○成澤農林水産部長

～資料1「鳥海高原牧場について（報告）」に基づき説明～

(方針)

- ・鳥海高原牧場は、平成28年度末をもって市の直営を終了して、4月以降は、民間へ移管する。
- ・この案件は3月定例市議会へ諮り手続きを進める予定。

(経過)

- ・同牧場は、昭和20年代の戦後開拓ということで始まったもの。
- ・八幡町時代に町直営の牧場ということで運営がされてきた。
- ・平成21年度から23年度の3年間、鳥海やわた観光(株)（以下、「やわた観光」）が指定管理者として運営を行い、平成26年度から2回目の指定管理者として運営している。
- ・市は、これまで畜産振興のため牧場運営を行ってきたが、行政が運営することで、収益を向上させるための新しい取り組みができなかった。
- ・今後も、行政が運営している限り、牧場運営の発展性が見出せず、土地や建物を民間に貸出し、民間の専門的な視点で牧場運営を含む事業に取り組んでいただく方向とした。

(移管対応)

- ・方針に基づき、昨年暮れから今年の当初にかけて、地元酪農家や農業者団体、現在の指定管理者である「やわた観光」と移管について話し合いを行ってきた。
 - ・初めに、現在、運営している「やわた観光」と話し合いをしたが、諸般の事情により移管を断られた経緯があり、その後、地元の酪農家や農協等とも話し合いをさせていただいた。
 - ・地元の方々からは、建物の経年劣化や牛の健康状態が少し良くないこと等による初期投資がかかることを理由に移管をお断りされた。
 - ・最終的に「やわた観光」から、引受けの承諾をいただいた。
 - ・土地、建物、物品等については、無償貸付けとしたい。
 - ・「やわた観光」は、健康福祉部門の業務委託やヨーグルトの製造販売などの雇用等で地域に十分貢献している企業である。
 - ・今後は農業の振興に関しても貢献が期待できることから、無償貸付けとしたい。
 - ・これまでも飼料用作物等の供給ということで、地域の皆さまから取り組んでいただいたが、今後も、耕畜連携の飼料用作物の安定供給を「やわた観光」にご支援ご協力をお願いしたい。
 - ・今後、市として、国や県の補助事業をスムーズに利用できるように、畜産業者と同様、側面的に支援したい。
 - ・地元の皆さまには今回の件で説明が遅くなった面もあるが、十分ご理解いただきたい。
- 以上。

○荒生議長 ただ今の説明を聞いて、質問などございましたらお願いします。

○遠田秀明委員 「やわた観光」へ移管の手続きを進めているとあるが、特定非営利活動法人「いぶき」は運営に関与していないのか。

○成澤部長 「いぶき」は平成24～25年度の2年間、指定管理の元で運営されたが、平成26年度からは「やわた観光」へ代わっており、現在「いぶき」は牧場には全く関わっていない。

○遠田秀明委員 「やわた観光」に移管すると、市の権限はどうなるのか。

○成澤部長 「やわた観光」の筆頭株主は、酒田市であり、牧場の運営からは市が手を引くが、筆頭株主の立場上、全く関与しないということではない。一方、今までのように、資金面で支援するという事にはならない。

○遠田秀明委員 現在の職員数と牛の頭数を教えていただきたい。

○成澤部長 正職員扱いで2名、パートが3名の全員地元雇用の合計5名で行っている。牛の数は140～150頭くらいで、そのうち搾乳牛は80頭くらいと聞いている。

○高橋知美委員 鳥海高原牧場については、以前この協議会でも、牛乳の生産だけでなく販売や乗馬などで観光客を誘致するような施策とするように意見が出ていたが、そのような話は「やわた観光」に出ているのか、それとも、全てやり方はおまかせしているのか。

○成澤部長 新しい牧場自体の振興策については、移管に向けて課題として出てきた。その中の一つとして、ジオパークに認定されたことにより、鳥海高原家族旅行村を利用する人を呼び込めるような牧場に変えて行けないかということ「やわた観光」で模索している。生乳供給のみならず、観光面でも広く牧場をアピールして行きたいと「やわた観光」でも方針を立てているので、ご支援させていただきたいと思っており、ご理解をいただきたい。

○荒生議長 市から牧場への資金的な助成の方針をお聞きしたい。

○成澤部長 現在は指定管理者制度のもと、「やわた観光」で運営をしており、指定管理料は年間2千2～3百万円を支払いしている。4月以降は、市の直営を終了するので、指定管理料がなくなるということになるが、一般の畜産農家と同様に畜産振興の補助金等を活用できるように検討していただいている。指定管理料がなくなり収支が不安定になるが、牧場自体の経費の削減では、生乳を自家消費にすることで、販売手数料を削減することや、飼料代の抑制などを考えている。同時に、生乳の搾乳量を増やして行こうと努めている。プラス要因とマイナス要因を作りながら収支のバランスを図って行こうとしている。経営的には2千万円の減額が痛い訳だが、それに見合った収支改善を図って行くことにしてお

り、ご理解いただきたい。

○荒生議長 正社員2人とパート3人ではこれから大変かなと思うが、24時間体制で夜の勤務もあるのではないか。

○成澤部長 夜は出産する牛等がいなければ勤務はしていない。朝の搾乳と夕方の搾乳が終われば1日の仕事は終わりということである。

○荒生議長 今まで大変だったので、「続けて行ければ良いな」といった希望的観測があるし、頑張っていたきたい。

○成澤部長 是非、地域の皆さんからもご支援・応援をいただきたい。

○荒生議長 次に報告事項の(2)八幡保育園・市条保育園の統合について説明願います。

○遠藤子育て支援課長

～資料2「八幡保育園・市条保育園の統合について」に基づき説明～

(趣旨)

- ・少子化、施設の老朽化が進む中、これまで平成29年度に統合予定ということで地域に説明してきたが、児童の入園見込み数等から1年繰延べして、平成30年度から市条保育園が八幡保育園に統合する。

(児童数の現状と推移)

- ・平成29年度は、現在、特に人数の多い5歳児が就学するために、その後、児童数が大きく減少する予定で、八幡保育園の既存定員枠(140人)で受入れ可能となる。
- ・平成28年度は2つの園を合わせて146名で、充足率が市条保育園が64.3%、八幡保育園が72.1%で、定員を大きく割り込んでいる。
- ・八幡地域の4月からの児童数の見込みとして、平成29年度は現在137名である。

(統合)

- ・八幡保育園の園舎の増築はしないが、児童数の増加等に対応した環境整備を推進する。
(保育室の改修・保育園玄関前の改修等)
- ・昭和53年建築の市条保育園は、施設の老朽化が激しく耐震化がなされていないことから存続は難しい。

(保育園保護者会及び地域説明会の開催)

- ・12/16 保護者説明会を実施(会場:市条保育園)

※反対意見はなし。意見質問として「統合に伴う保育の質」等があったが、「保育士は研

修を積んでおり、対応可能」と回答。

・地域説明会：(一條 12/21、観音寺・大沢・日向 1/19 実施)

※「通園バスの運行」等の意見質問あり

(活断層について)

- ・八幡保育園の下に活断層帯があるが、施設は新耐震基準を満たしており、当面、利用を継続する。
- ・文部科学省の機関によれば、八幡地区で断層の将来発生確率は、今後 100 年でほぼ 0% といわれている。以上。

○荒生議長 ただ今の説明を聞いて、ご意見・質問などございましたらお願いします。

○後藤純子委員 以前、荒瀬川の増水で園児らが避難したことがあったが、活断層の件よりも川の増水の可能性が高く心配である。それに対する避難訓練等の対策や指導はされているか。

○遠藤課長 以前、増水した際、八幡総合支所と増水の状況等の連絡を取り合いながらタウンセンター等に避難したことがあったが、災害に対応した早め早めの移動、避難を心がけている。

○荒生議長 市条保育園の建物はだいぶ古くなっているが、解体するのか。

○遠藤課長 現在、壁が落ちてきたりすることはあるが、修理しながら使用している。あと 1 年間使用するので、安全を確保しながら使用する。その後の活用は、今のところ考えていないし、すぐに解体して更地にするといった結論までには至っていない。

○阿部喜至夫委員 保護者の皆さんが納得しているのであれば、私達から意見等は特にない。

○佐藤政義委員 以前は八幡保育園一本だったので、昔に戻ったということだ。それから、先程、牧場の移管の話が出て、市立保育園の民間移管も進めているようだが、将来は八幡保育園も民営化の可能性があるということか。

○遠藤課長 平成 26 年度に本楯保育園が民間移管をしたが、今後 3 年間くらいは移管の予定はない。その先も、酒田市行財政改革プランには、どこを移管するといった方針は出ていない。将来はわからないが、公立保育園の必要性はあると思われる。

○佐藤政義委員 民営化の可能性はゼロではないということか。

○遠藤課長 はい。

○荒生議長 次に、報告事項の(3)「酒田市医療提供体制整備基本構想(案)について」説

明をお願いします。

○池田地域医療政策主幹

～資料 「酒田市医療提供体制整備基本構想（案）の概要」及び「酒田市医療提供体制整備基本構想 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構への酒田市立八幡病院等の移管統合について（案）」を基に説明～

- ・平成28年11月20日、八幡地域協議会へ移管統合の報告
- ・移管統合を進めて行く上で、病院機構の定款、中期目標及び中期計画を変更する必要がある。これらに酒田市の計画を反映して行くために、この資料は基本構想として今まで説明してきたものをまとめたものであり、3月までに案を取った形で基本構想として行きたいと考えている。

※概要版の説明

(基本的な考え方)

1 医療による現状と課題

- ① 人口構造の変化と国による改革（社会保障制度改革・医療制度改革など）
- ② 酒田市の医療提供体制の現状と課題

◇本市における病院改革と現状

- ・山形県・酒田市病院機構を中心に医療機能の分化・連携が推進
- ・本市が開設している病院及び診療所は、人材確保が困難等の理由で維持が厳しい状況。

◇課題

- ・地域医療構想への対応
- ・医師及び看護師の継続的な確保
- ・医療と介護の連携強化（地域包括ケアシステムの構築等）

2 医療提供体制を確保するための方向性

- ① 八幡病院等を病院機構へ移管統合することによりネットワーク化を図り、地域の状況に合った地域包括ケアシステムの構築を目指す。

(移管統合の基本方針)

- 1 移管統合の目的：将来にわたり医療提供体制を確保し、地域の住民が安心して生活できる環境を提供

2 移管の時期：平成30年4月1日

3 移管する病院及び診療所：八幡病院及び升田・青沢・松山・地見興屋・飛島の5診療所

4 移管統合後の八幡医療センター（仮称）等のあり方

（八幡）

① 診療科：住民から要望のあった「整形外科」を追加し、リハビリ機器等の充実を図る。

② 形態：無床診療所となるため、救急告示病院ではなくなる。

③ 診療時間等：土曜日診療（1日）と平日夜間延長診療（午後9時まで）の実施（応援医師の確保を図りながら可能な範囲で）

④ 人員体制：常勤医師2名・看護師10名（うち訪問看護4名）等

⑤ 升田及び青沢診療所については継続するが、患者数がかなり減少しており今後2年間の状況を見て検討予定。

⑥ 訪問診療、「幸楽荘」入所者の診察は継続し、新たに訪問リハビリテーションの導入を検討。

⑦ 医療提供体制（平成30年4月～）として

・日本海総合病院（高度急性期医療）を中核として、酒田医療センター（回復期、慢性期医療）、かかりつけ医役の八幡医療センター、松山診療所、飛島診療所と役割分担を明確にしながらネットワーク化した医療体制を設置する。

（その他）

1 交通手段の確保

・無料シャトルバスの運行（日本海総合病院～八幡医療センター間）

2 終末期医療について

・主治医と患者、家族との十分な話し合いによる方針（在宅・福祉施設・病院）に適切に対応。

3 住民から強く要望のあったリハビリテーションの充実と環境整備を行う。

（今後の予定）

・県や市議会、地域の協議会等への説明を行いながら、3月までに案を取った形で基本構想として行く。

- ・平成29年度に病院機構の定款及び中期目標、中期計画の変更に反映させて、一連の手続きを行ってゆきたい。

(施設の名称について)

- ・八幡医療センターの冠に「日本海総合病院附属」といったものを付けることを検討中。

以上

○荒生議長 何かと話題に出てくる件ですが、ただ今の説明に関し、改めて何か質問等がございますか。

○本多秀之委員 これまでの説明で、知り尽くした感があり特にございません。

○阿部喜至夫委員 無料シャトルバスはどのような頻度で運行の予定か。

○池田主幹 午前2便と午後2便で検討中です。八幡の「ぐるっとバス」との時間の調整もあり、具体的な時間等については平成29年度にお話しさせていただきたい。

○小松久美子委員 八幡病院で受診して、「ここでは対応できない。日本海病院へ行って下さい」となった場合、救急車を呼ぶことになるのか。

○池田主幹 その患者の状況にもよるが、歩けるような状態でなければ救急車を呼ぶことになる。

○小松久美子委員 実際問題として、具合が悪くなって自分一人で通院して救急車を呼ぶことになった場合、救急車に付き添いの人が必要であり、その際、家族を呼ぶのか病院の人が付き添ってくれるのか、具体的な対応はどのようなのか。

○池田主幹 救急車を呼ぶ場合、連絡先がわかる人であれば、すぐに家族に連絡し、時間がかかるということであれば、先に患者を救急車で運び、追って家族が病院に駆けつけるということもある。いろいろなパターンがあると思うので、うまく連携を取りながら対応したい。

○小松久美子委員 そのような場合になった時、具体的に対応して動いてくれるのは誰がしてくれるのかなと気になった。

○池田主幹 家族等への連絡については、事務職員が中心になるかも知れないが、当然、看護師もそこに入って連携を取って進めて行く形になる。

○荒生議長 次に、次第5の協議事項の(1)市長への八幡地域協議会の提言事項について説明願います。

○後藤啓八幡総合支所長

～資料3、資料4「市長への八幡地域協議会の提言事項について」を基に説明～

○荒生議長 3月27日に旧三町合同で市長への報告会を予定しており、ご意見・質問等ありましたらお願いします。

○後藤支所長 今までの提言の状況を見ると、3件ほど出してもらっている。過去に提言した中で、取り組みがあまり進んでなく何度も提言しているものもあり、その辺を考慮していただければと思います。

○高橋知美委員 平成18年度に「学童保育所の充実を」ということで提言しているが、現在の八幡学童保育所を運営して行くのが大変な状況だということを目にした。実際、どのような状況なのか、継続できるのか、また、同じ建物に他の事務室が入っているために子ども達が押さえられた状態にはなっており改善することはできないのか、お聞きしたい。

○後藤支所長 学童保育所については、預かっている子ども達の面倒が大変だということで指導員が退職すると聞いている。現在、募集を行っているが、応募の状況については不明である。同じ建物に商工会の八幡支所が入っているが、平成29年度いっぱい平田の本所に統合の予定であり、それ以降は学童保育所だけの建物になる。学童保育所の経営状況については、こちらでは関与してなく、運営委員会で行っている。

○遠田秀明委員 「やわた観光」に牧場が移管する訳だが、「やわた観光」の各施設の経営状況がわかれば教えてほしい。

○伊藤建設産業課長 現在、年度末に向けて決算を作成中だが、ヨーグルト工場が順調に推移している。個別の収支は不明だが、総体的には黒字である。

○阿部喜至夫委員 ジオパークに認定されたことは皆、知っているが、ジオパークの中身を知っている一般市民の人は少ないと思う。先程から鳥海高原牧場の話も出ているが、「観光面に力を入れましょう」ということを言っても、牧場の職員数が正職員2名、パート3名ということを知ると牛の飼育だけでいっぱいと思われる。また、玉簾の滝には、年間12万人が来るらしいが、「ららら」では売るものが少なく「たわわ」に商品を融通してもらえないかと話があったが、「たわわ」でも年間通して商品は足りなく、「そちらに向ける余裕はない」とのお話ししかできなかった。玉簾の滝を見にきた観光客を牧場のほうへ誘導するような仕組みを作って、「やわた観光」の商品を販売するような形にできないか。

○伊藤課長 先程、農林水産部長の話に、観光面で行政ができなかったものが、移管することにより、民間だからできるものがあり、牧場の運営だけでなく観光面にも力を入れて行くだろうといった話があった。一方、「やわた観光」の社長とも話をしているが、2千万円

の管理委託費がなくなることによる経営財政面や牛の健康状態の課題等で、この2～3年が勝負かなと話をしてきた。そうした中で、「牛の飼育だけでなく、牧場に人を呼ぼう」という発想も現在出ている。ジオパークに認定されたことにより、新年度から「ジオ牧場」に改名しようといった話も出ており、目標に向けて徐々に近づきたいと思っている。

○長谷川明子委員 先日の玉簾の滝のライトアップで、通算5千人くらいの観光客が来たが、その際、観光バスが1台来たが「ららら」では連絡不足のせいかな、何の対応も出来なかったとのことである。どうしたら八幡は生き残れるかと考えると、自然資源での観光しかないような気がする。「やわた観光」には、もちろん頑張ってもらいたい、市を含め全体で八幡の観光振興の施策がないものか。

○荒生議長 以前、遊佐町のホテルに韓国から団体客が来た際に、観光バスが玉簾の滝にも来ていた。市でそういった情報があった場合「バスが行く」といった地元の人への事前の連絡・連携があれば、おみやげ等の販売の対応が出来るだろう。そのような方策はないものか。

○伊藤課長 今回のライトアップの観光客への対応不足は否めない。今後は観光面の情報を密にして行きたい。「ららら」の品物については、特に冬期間などはないのが実情だ。観光物産事業実行委員会でもこの話は出ており、対策を進めたい。

○荒生議長 ライトアップは、連休とお盆と冬の年3回実施なのか。

○伊藤課長 冬は来年以降、予算が付けば行う予定である。

○高橋知美委員 各地の観光地に行くと、必ず観光ガイド・観光案内所があり、有名な所から細かいお店まで紹介できるような場所・施設があるのは普通である。今後、そのような観光案内所を作る予定はないのか。

○伊藤課長 八幡管内に作るという話は出ていない。現在は、酒田全体で2箇所、酒田駅構内と、外国人へは観光振興課内に観光案内所を設けている。

○高橋知美委員 その2つに関しては、他の地域への「つながり・連携」というのはどうなのか。先程、八幡地域に来て情報も遅くて何もなかったとの話があったが、情報が来ないということはつながりがいいことである。

○伊藤課長 今回の件は、市の不手際であったが、全体の観光情報は観光案内所同士で連携している。

○長谷川明子委員 庄内町に「道の駅」が出来たが、庄内では酒田市だけ道の駅がないので、

八幡が一番最初に手を挙げるべきではないか。

○伊藤課長 旧酒田市でも「道の駅」構想ということで検討はしたが、当初、遊佐町も合併対象になっていて、その際、旧酒田市が降りた経緯がある。その後、「道の駅」が非常にブームになり、「酒田はどうするか」となって水面下では検討に入っている。何処にどう持って行くかというようなことまでは決まっていない。「道の駅」は主要国道に多く、国道7号線沿いが有力と思われる。

○長谷川明子委員 八幡にも国道は2つもある。鳥海山もあるので是非お願いしたい。

○伊藤課長 一定の交通量がないと難しい。

○荒生議長 他にございますか。今日はこのメンバーでの地域協議会が最後ですので、発言したいことがありましたらどうぞ。

○石川正志委員 今日、牧場の件、保育園の件、八幡病院の件で酒田市からお金を出してもらっていたのがなくなる話ばかりで、昨日、酒田市の予算がニュースに出ていたが、豪華客船が来港する一過性のものに予算が付く形で、365日、酒田で生活している人への予算の配分はどうなっているのかなと疑問に感じテレビを見ていた。普段、住んでいる一般市民への相応な予算措置が大切である。

○後藤支所長 市長の考え方としては、交流人口の拡大というのがメインとなっており、外国クルーズ船や北前船の寄港地の日本遺産等、話題性のあるものに予算が付き、平成29年度も大規模な予算になっている。一方、市民の生活に密着した予算については、毎年、大きな増減はなく話題にはならないが、生活基盤の安定のための支援や子育て支援、女性活躍のための支援等の事業にも予算が付いている。予算は、目玉になる事業は全面に出てくるが、地道な予算もある。

○石川正志委員 物産販売店にすれば、数年に一度のイベントがある年は客が多いが、翌年はガクッと減ったりする。クルーズ船の件も定期的に酒田に寄ってもらえるような施策を望む。

○小松幸雄委員 先程、滝のライトアップの話が出たが、一晩で1千3百人、墓から駐車場まで、ほぼ満杯で大型バスが身動きできなかった。車両の通行の回転がスムーズに行くように、一方通行にするとか、人の配置も十分にするとか、色々な話が聞こえてくる。「観光を促進して」とよく話が出ているが、観光客の立場に立ったサービスをしないといけない。ジオパークになったからどうのではなく、イベントの際は、前もって色々なことを想定し

て、イメージトレーニング等やったりして、問題が起きた際の対応の仕方とか皆で話し合う必要がある。

○荒生議長 結局、道路と駐車場の狭いということか。

○小松幸雄委員 冬は特に狭くなる。

○石川正志委員 バスはすれ違いが出来ない。

○伊藤課長 予想以上にお客さんが来たということで、除雪はそれなりにやっていたが、車の循環の仕方が悪かったようだ。

○荒生議長 循環できるコースは除雪をしているのか。

○小松幸雄委員 住宅がない場所はしていないようだ。

○伊藤課長 来年度もライトアップの予算が付けば、今年の実験を踏まえて、協議会を立ち上げることも考えている。

○荒生議長 その道路は市道か、それとも農道か。

○伊藤課長 農道です。

○石川正志委員 駐車場の所有者はどこか。

○伊藤課長 酒田市です。

○小松幸雄委員 駐車場も、土日のお客さんが来る時しか除雪しない。平日に車が2～3台あっても除雪してくれない。他の観光地だと、曜日関係なく、お客さんが多く来る来ないに関わらず除雪している。基本的なことが出来ていないので、皆で議論・ディスカッションをして、よいものを作り上げて行かなければならない。「ららら」のおみやげの件、駐車整理の件、観光案内の件、すべての面でうまく行っていない。玉簾の滝の現場に立って、滝の歴史について、弘法大師が発見の話など観光客に説明する人も一人もいない。格好良い話ばかりしても、なかなか先に進まないなので、原点に戻って皆で楽しく話し合いをして良いものにすることが大切だ。それと、「ららら」のトイレだけでは観光客の対応が出来ず、「たわわ」にもトイレが必要である。

○荒生議長 以前の地域協議会でも「たわわ」にトイレ設置の必要性があるということで話があったが、管理が容易でないということで消えたことがあった。

○阿部喜至夫委員 地元の人からは、トイレを済ませてから行くせいか「たわわ」にトイレ設置の要望はなかったと聞く。一方で、例えば鶴岡からスーパー農道を通って鳥海山に行く場合、駐車場からすぐに寄れるトイレがない。「道の駅」は344号沿いは難しいだろうが、

以前、八幡地域にある公衆トイレは廃止することで動いているとのことだったが、日和山には新しいトイレが出来るとのことである。八幡の公衆トイレがなくなっただけではなくて、場所が悪いために使わなくなっただけの話であり、「たわわ」の駐車場にあれば、一般の方は喜ぶだろう。では、どこからお金が出てだれが管理するのかとなった場合の課題は全く解決していない。

○小松幸雄委員 蕎麦屋をやっていて外に便所を一つ置いているが、お客さん以外で誰かが使っている場合もある。外国人が日本に来てすばらしいと感じる点が3つあるという。①「電車の時間の正確性」、②「どこのトイレもきれい」、③「どこの観光地も自動販売機が豊富」である。行政の職員も事務所でパソコンに向かってだけでなく、もう少し、現地に足を運んで見たり聞いたりしてもらいたい。

○小松久美子委員 以前も話が出たが、八幡病院の二～三階の利用の話は進んでいるか。

○土井義孝八幡病院事務長 現状では、まだ進んでいない。

○荒生議長 前の地域協議会での「たわわ」のトイレの件の結論は出たのか。

○阿部喜至夫委員 実際、「たわわ」で建てるだけの予算はないが、現状として車いすの方は非常に使いづらい状態である。高齢者が施設等からバスで来て、車いすを使っている人が多くなっており、「たわわ」の場合、トイレも建物の中にあって、ドアも2つあり段差もある。車いすに前と後ろに人がいて、持ち上げて出入りする不便さもある。新規開店当初はお客様用というよりは従業員用という感じで作ったようだ。国内で最高の入場者数を記録したこともある、宮城県岩出山に廃校中学校の跡地に出来た直売所がある。当初は「こんな所買い物に来る人はいないだろう。でもトイレだけは立派にしましょう。」ということで作ったらしいが、現在は大当たりしている。やはり、観光地として成熟している所はトイレの偏差値が高いと言われるが、お客様にとって一番はトイレであり、次が食事やおみやげ物である。おもてなしの面から言えば、生理現象を我慢させるのが一番不調法な対応だと思うし、限られた予算なので当然、優先順位があると思うが、八幡地域の観光振興という面を考えると、「たわわ」の駐車場に外のトイレを作ることは、私は優先順位が高いものと思っている。

○荒生議長 ジオパーク事業の一環としてトイレの設置に持って行けないのか。

○後藤支所長 利用者のニーズもあるし、近くに代替施設の有る無しにもよる。コンビニにも障害者用のトイレがあり、もし作れば、当然「たわわ」での管理が必要になろうし、対

応してもらえるのかの課題がある。

○荒生議長 「トイレを使う人が来ないから作らない」のではなく、逆の発想で「あそこが良いトイレがあるから、用足しついでに買い物するか」みたいなことになれば良いと思われる。以前からこの話は出ており、当然、ニーズはあると思われ、来年度あたりの予算計上を考慮してもらえればと思う。

○後藤支所長 市長への提言はいくらでも出来るが、その後の管理をどうするのかといった問題が出てくる。

○荒生議長 公園のトイレは、市でやっているのか。

○伊藤課長 都市公園ということで、遊具とトイレはセットで市が管理している。「たわわ」の場合、あくまでも「農業販売施設」ということで観光面でどんどん観光客を呼ぶような目的は当初はなく、小さなトイレしかないというのが実情だ。

○長谷川明子委員 ただ今、「当初」との発言があったが、どの位の年数が経つと当初ではなくなるのか。

○伊藤課長 「当初」というのは建てた当初という意味だった。

○長谷川明子委員 「ららら」の建物も建てた時のままであり、時代のニーズに合わなくなっているのに「当初」という発言はどうか。年数が経つにつれ変わっていかなければならない。

○小松久美子委員 建物の評価として公的な物ではないということでは。

○長谷川明子委員 それだと、八幡はしばむ一方である。

○小松久美子委員 どこに行っても思うのは「自由に使えるトイレは何処だろう」となる。

自分の勤務先は真室川町だが、通勤経路で途中で自由に使えるトイレは何処にもない。公衆トイレは観光振興の一方、生活のニーズでもある。現在の八幡病院は24時間体制であり、夜に「用足させてもらおう」と、いつでも寄れる訳だが、これから先は出来なくなる。八幡でトイレを使いたい場合、コンビニもあるが、買い物もしないで使用する事には抵抗があるだろう。

○小松幸雄委員 日向コミセンには、年に数回、トイレだけのために使用させてもらっている。全く知らない人も借りに来ているようだ。

○高橋知美委員 自分もコミセンのトイレは利用している。知らない土地に行くと、「道の駅」や公共施設に行って「すみません。貸して下さい」と言って借りている。八幡地域でも自

由に入れる場所があったら夜間など特に助かる。現在、「道の駅」が流行っており、どんな山奥の「道の駅」でも必ず2～3台の車がある。道の駅の需要は多くあり、人口が少ないから「道の駅」はいらぬといった考え方は、今の状況を考えると当てはまらないのでは。

○小松幸雄委員 この間、大型バスで長野に行ったが、トイレタイムは全部「道の駅」だった。そこで、どっさり高齢者達がお土産を買っていた。

○荒生議長 市長への提言として、ジオパークにつながる形として、トイレ設置の件を上げてよろしいか。

～委員一同、賛成～

○阿部喜至夫委員 「たわわ」の施設内に作ると営利団体なのでうまくないとすれば、隣接した農道があり、そこの一面を利用するような形にしたら、ジオパーク絡みの位置付けになるのかわからないが、駐車場に車を置いて歩いて行ける外の場所になる。コンビニ等のトイレを最初から充てにして「この地域にトイレは要りません。」といった考えでは、観光の発展の面から頭打ちになると思われる。

○本多秀之委員 トイレを作る際の公的な法的・規則的なもの、根拠・基準のようなものがあると思うが、そのような情報があればお聞きしたい。いくら設置要望の声を上げて、条件に合わなくては無駄な話になる。ある部分で可能性があるとするれば、この話は時間をかけてもやるべきである。可能性があるのか、ないのか、しっかり教えてサポートしていただきたい。

○後藤支所長 それについては、こちらで調査したい。

○伊藤課長 自分の考えとしては、公衆トイレというのは難しいと思う。そこの施設にマッチし、お客さんがいっぱい、用を足すのに不具合が生じているとなれば、農業施設関係での予算要求の形になろうかと思われる。

○荒生議長 その辺を調べてもらって、後で情報を流していただければと思う。このメンバーは今年度で終わりなので、来年度のメンバーに引き継ぎたい。

○高橋知美委員 その他、市の政策推進課で作成した「生涯活躍のまち 日本版 CCRC 構想の実現可能性の調査 中間報告」という資料をいただいたが、これについて現在どうなっているのか、情報がないので教えていただきたい。自分は、「関東の生活プラン」という所に入っていて、実際に生涯活躍のまちの構想についてホームページもあり、その情報についてのトークショーやシンポジウムを東京でもやっているみたいで、インターネットでも見

れる状態になっていた。地元の私達が、この構想についてあまりにも無知というのはどうなのかなと思うし、また、雇用についてや保育・学童保育等についても唄い文句みたいに入っており、この地域でこんな良い暮らしがしたいなど他地区から人が来た場合、果たして今の状況・レベルで受け入れられるのかなと個人的に心配がある。八幡病院の問題もこれに含まれることであり、「道の駅」やトイレの件についても全てつながっていくことになると思われる。この資料は、書いた餅みたいに感じだが「酒田市役所吉祥寺テラス」というのもあるらしく、構想の情報提供や現在の状況をお聞きしたい。

○後藤支所長 CCRCについては、昨年、八幡地域内でも施設調査ということでコンサルト会社が来て調査していた。内容は、八幡病院の病棟を再活用出来ないかということだったが、施設の改修等を考慮すると中々難しいとのことだった。移住関係の話は、吉祥寺テラスを含め県の東京事務所や、この間は地域おこし協力隊の移住者フェアでも移住のPRはしている。受け入れ・相談窓口は政策推進課で行っており、地域内の空き家を利用したお試し住宅というのも用意しており、何件かの問い合わせはあったようだ。

○高橋知美委員 そういうのをもっとPRしてはどうか。

○後藤支所長 市の広報には出している。

○高橋知美委員 市の広報は、ペラペラ開いては見るが、失礼だが気に留めるようなものはあまりない。首都圏とこちらのPRには、温度差があるような気がする。

○後藤支所長 市のホームページの「移住・定住」の項目を見ていただくと同じようなものが載っている。

○高橋知美委員 それを見ると「あっ、いいな」と、気に留めるような内容ではなく、もう少し仕掛けを考慮した形だと良い。魅力的で住みたいと思うような街になればと思う。また、この地域では就職に困っている人が多いという状況なので、「道の駅」などの観光面につなげれば雇用も生まれる。

○後藤支所長 先程から「道の駅」の話があるが、車の通行台数や入込み人数の予測もあり、八幡地域内の建設は難しいと思われる。「たわわ」と連携・拡充した観光施設建設の可能性はある。あと、ホームページの内容が固いという指摘は、昨年10月から内容を一新し、読みやすくとなっているが、そういった意見もあったということで広報の担当課に伝えた。

○荒生議長 市長への提言の関係だが、例年3件ほど出しているということで、トイレの件

以外は事務局で、これまでの内容を踏まえてまとめていただきたい。

○事務局 わかりました。

○高橋知美委員 「子育ての充実を」は外せないので載せていただきたい。

○小松幸雄委員 平成27年度の提言にトイレを加える形で良いだろう。

○荒生議長 他にありますか。

○佐藤政義委員 国道344号線の安田バイパスの状況はどうなっているのか。

○伊藤課長 安田バイパスは事業化に向かっている。現在、測量等を行っており、それが終わると用地交渉に入る形となる。安田畜産から吉田新田方面に向かう市道があるが、黄色の旗や杭が立っており、そこまで進んでいる。これから用地交渉・用地買収をして、完成までもう4年位はかかるのではとの状況である。

○佐藤政義委員 反対していた地権者の承諾の見込みはどうか。

○伊藤課長 その部分を外す形になるが、バイパスは両側歩道と聞いており、R400はギリギリと思うが取れるはずである。雪が消えると測量状況が見えると思う。

○荒生議長 他にないようですので、先程から言っていますが、今年度で私たち委員の任期は終わります。私が会長・議長で皆さんの足を引っ張った点もあるかと思いますが、大変お世話になりました。来年度は新しいメンバーで盛り上げていただければと思います。副会長の小松さんより、あいさつを含めて、閉会をお願いします。

7 閉会

○小松副会長 副会長ということで、2年間、皆さんに大変お世話になりました。至らぬ点申し訳ありませんでした。これを持ちまして、今年度第3回目、また私たち第6期委員にとって、最後の協議会を閉会いたします。委員の皆さんご苦労様でした。

以上